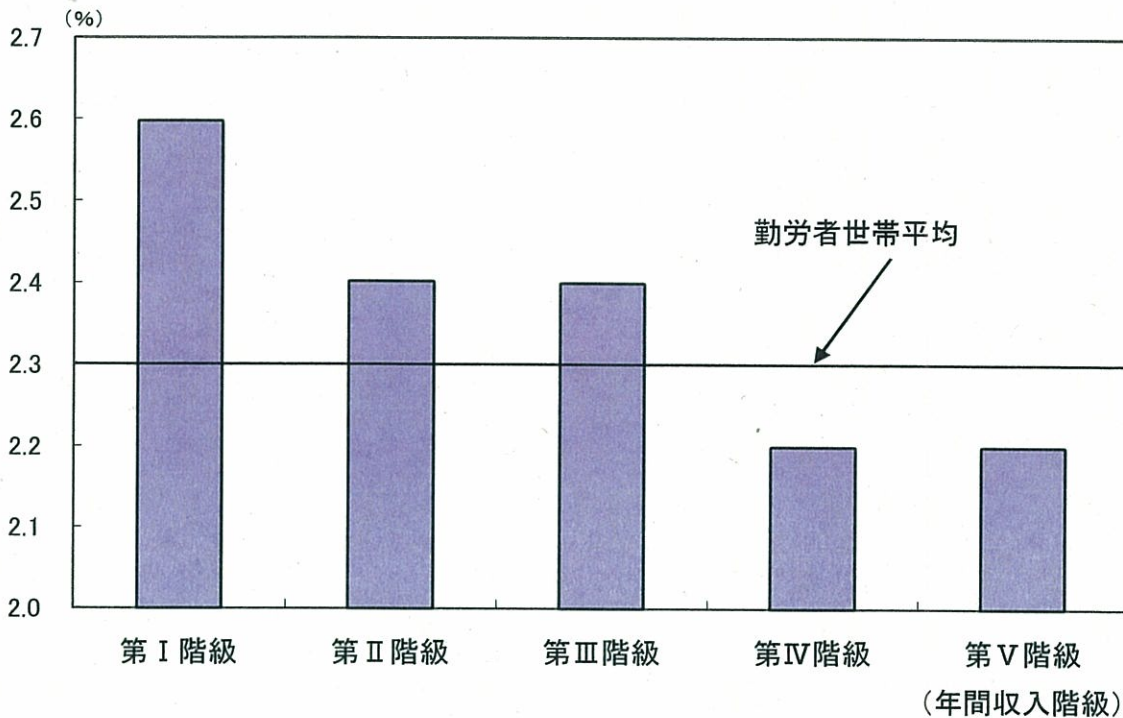


収入階級別にみた消費者物価の上昇率



資料出所 総務省統計局「消費者物価指数」

(注) 1) 数値は、2008年7月の対前年同月比(消費者物価指数(総合)は、2008年7月にピークを迎え、対前年同月比2.3%上昇となった)。

2) 収入階級別は、年間収入の低い方から順に並べ5等分し、収入の低い方から第Ⅰ、第Ⅱ、第Ⅲ、第Ⅳ、第Ⅴ階級として、消費者物価の勤労者家計への影響をみたもの。

(近年の物価上昇は低所得層で大きい)

- 2008年央までみられた消費者物価上昇の影響を所得階層別にみると、所得階層の低い世帯ほど高い上昇率となっている。消費者の購入品目は、所得階層別に異なり、所得階層の低い世帯ほど生活必需品の購入割合が高まるが、輸入穀類の商品市況の値上がりなど輸入物価の上昇や石油価格の上昇は、生活必需品の価格上昇へとつながり、所得の低い世帯により大きな影響を与えた。
- この動きについて長期的にみると、2000～05年の消費者物価の低下過程では、それぞれの階級においてあまり差は見られなかったが、2005～08年の上昇過程では、その上昇幅は、特に、所得の低い第Ⅰ階級において大きなものとなっている。